

# CSNVによるピーマン及びトマトの新規ウイルス病の防除対策

農業研究部

## 1. 研究の背景

平成27年に本県のピーマン及びトマトにおいて、これまで未確認のウイルス様症状が発生した。診断の結果、本県未発生のキク茎えそウイルス(CSNV)によるピーマンえそ輪点病及びトマト茎えそ病であることが判明した。そこで、本ウイルスによる症状及び対策について報告する。

## 2. 研究成果の内容・普及のポイント

・症状

CSNVに感染し、発病したピーマン及びトマトは、いずれも葉に退緑黄斑が生じ、その後えそ斑点となり、茎にはえそを生じる場合がある。また、ピーマンでは、葉に明瞭なえそ輪紋を生じ、生育初期に感染すると成長点付近が発病して株が萎縮する場合がある(図1)。

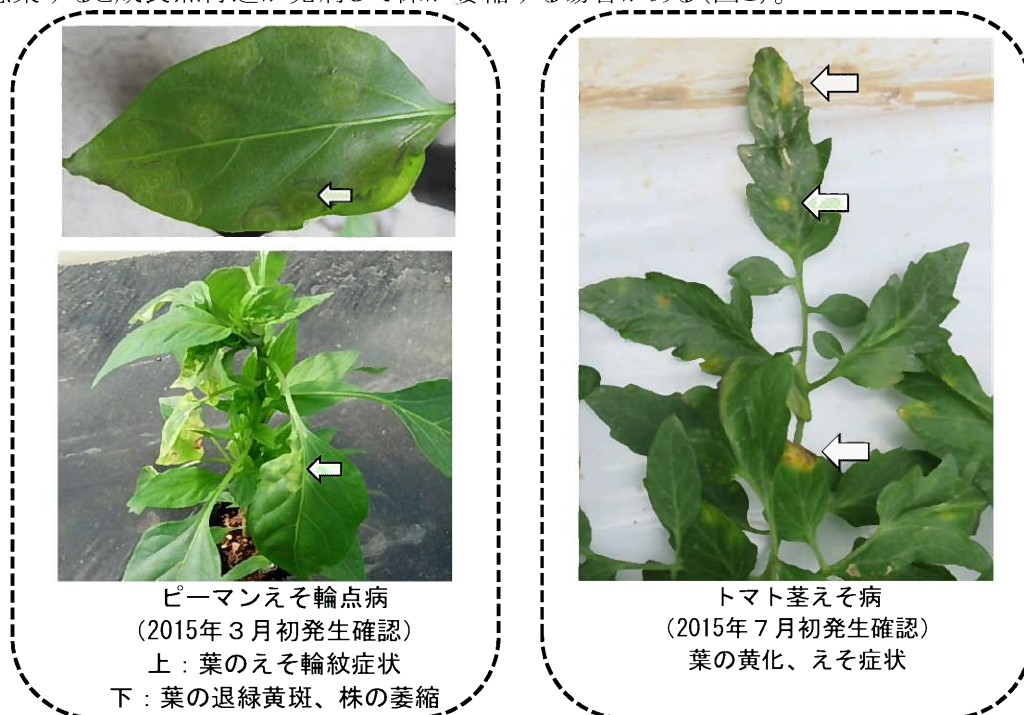


図1 ピーマン及びトマトにおけるCSNVの症状

・対策

CSNVはアザミウマ類により虫媒伝染する。媒介虫は、国内ではミカンキイロアザミウマにほぼ限られる。そのため対策として、ほ場内での本虫の発生を抑制する必要がある。

- ①生育初期から、ミカンキイロアザミウマを対象とした薬剤防除を徹底する。
- ②ほ場周囲3mの除草を徹底し、本虫のほ場外からの飛び込みを防止する。
- ③ピーマンでは、本虫が果実残さで越冬することが確認されているため、作付後の残さ処理を徹底する。

## 3. 期待される効果

CSNV発生ほ場でこれらの対策を行うことで、本ウイルスの発生を根絶できることが期待される。

## 4. 担当機関連絡先

農業研究部 病害虫対策チーム

TEL：0974-28-2078

住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8